

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300257		
法人名	株式会社 清流		
事業所名	グループホーム おものがわC棟		
所在地	秋田県横手市雄物川町沼館字高畑394		
自己評価作成日	令和2年5月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・駐在所、スーパーマーケット、レストランが近くにあり、社会資源に恵まれた場所に位置している。設備の整った中央公園は真向かいにあり、日頃より散歩コースとして活用している。A、B棟のノウハウを活かし建物の構造も改善しているため、職員と入居者の動線に沿った最適な造りとなっている。  
 ・毎月2回訪問看護があり、受診が困難な方へは往診もして頂いている。日頃より歯科や薬局をも含め、気軽に相談できる等、医療連携が密に取られている。  
 ・ご家族へは毎月手書きで、ご本人のホームでの様子を手紙にして送っている。さらに出納帳のコピーや日々の写真も添付している。  
 ・住み慣れた地域のホームで、自然な看取りも経験させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの影響は少なからずあるものの、ホーム前にある公園を散策したり、地域の特産物が出回るころには例年のように買い物に出かけたりして利用者の楽しみを引き出し、馴染みの関係が途切れることなく「あたりまえ」の生活ができるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は「あたりまえのことはあたりまえに」を運営理念の下、入居者の方へ「その人らしく、のんびり、ゆったりと」をケア方針に揚げ、情報提供を密にしその方らしい生活ができるように取り組んでいる。	チーム目標が見える所にわかりやすく掲示して周知を図り、日々の業務で実感しながら利用者の支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所では食材の注文、配達や馴染みのある美容院を受け入れて地域交流に力を入れている。また、運営推進会議にも地域の方々に参加していただいている。	街の中にあるホームとして、感染防止対策をしながら地域との繋がりを保ち、利用者の「あたりまえ」の生活を支えています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	通信へ認知症の方の理解や接し方、GHでの生活などを載せて発信している。包括主催の徘徊見守り訓練に参加し、支援の方法などを伝え、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催している。行政や社協、民生委員、地域福祉協力委員、地域の方々にも参加していただき、入居者の状況やリスク、サービス内容等の報告して意見を取り入れ、サービス向上に努めている。	現在は行政のみ参加し、状況を報告しています。他のメンバーには資料を送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、社協、居宅事業所、病院関係等積極的に情報の共有に努め、協力関係を築いている。(月1回の地域ケア会議に参加している。また、介護相談員の受け入れにより積極的に外部へ取り組みを伝えている。)	介護相談員の受け入れを現在は中止していますが、地域ケア会議に参加して包括支援センターと協力関係が築かれ、さまざまな場面で連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事故の危険性が高い方に関しては、ご本人、ご家族の了承を得て、ケア提供が困難な時間帯、職員配置等に支障のある場合のみ対応している。また、外すことがゴールであることを全職員が理解し、安全に生活ができるようにケアにあたっている。	職員は十分に理解して取り組んでおり、状況に応じて対応を検討し、必要な帳票も残しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で開催される研修会へ参加する機会を設けたり、施設内では管理者が中心となり職員の意識調査や勉強会を行い、虐待防止についての知識の習得と理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業制度を利用している方がいた為、制度について現場で学ぶ機会があった。また、研修会等への参加で知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関してはご家族に対し十分に説明し、ご理解頂き納得したうえでやっている。入居に対しての希望や退去後の施設選び、サービスの選択、社会資源の活用など幅広く説明し、理解をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員の訪問時、ご家族の面会時など入居者が要望や意見を外部に発信できる環境にある。ご家族に対してもアンケートを実施したり、日頃から意見を言いやすい環境であるよう心掛けている。また、苦情処理受付箱を設置し意見等を頂き運営の反映に努めている。	家族の相談に対応する等して日頃から気軽に話していただき、アンケート結果についても報告しており、苦情等がある場合には職員間で協議し、意見、要望の反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、ケア会議、職務会議、毎日の申し送りで、ホームの環境やケア提供に関する職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。また、一人一人が発言しやすい雰囲気を作ることも大切にしている。	コミュニケーションを図って情報を共有することをチーム目標に設定しており、申し送りで意見交換している他、ケア会議に諮る等、職員の意見、要望を取り上げて運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各研修会への参加奨励や各自が資格習得などの目標を持ち、その際には休暇希望を受け入れている。その際の勤務調整は、支障なく組まれている。また、各棟の連携によって協力体制もとられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自身も資格を有し、職員に対しては研修会に参加できる機会を設けるなどスキルアップにつなげ、資格習得など職員の育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全県、横手市GH研修会、運営推進会議、GHの相互研修等を勉強の機会とし、質の向上に努めている。職員は積極的に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族、担当ケアマネと通じ、ご本人の性格や生活歴を情報収集し、ご本人が安心して生活して頂くことを第一に、要望や不安なことを傾聴しながらより良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族が現在困っていることや要望等を十分に傾聴し、ホームの生活上において不安に思われていること軽減できるように安心して利用していただけるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上において、できる部分は見守りながら行ってもらい、できない部分を手伝いながら自立支援を目標に、共に生活するパートナーとしての関係作りに努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に対して担当職員と管理者からのお手紙を送付し、生活状況や健康面などについて報告させて頂いている。また、電話や面会時にも状況報告を行っている。情報の共有と関係の強化に努め、共に本人の精神の支えになれるように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、親戚の方たちの面会時にはホールや居室でお茶を取りながらゆっくり談話できるようにサポートしている。また、知人の方より電話があった時も納得されるまでお話しして頂き関係の強化に努め、共に本人の精神の支えとなっていく関係となるよう努めている。	一定の制限を設けてはいるものの家族と面会できるようにしている他、産直品の購入を毎年楽しみにしている方もおり、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の介入により入居者同士のコミュニケーションがスムーズに行われるよう支援に努めている。また、入居者同士が互いに居室を訪問しあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人、家族との関係を大事にし介護保険サービスについての相談や他施設に関する相談、情報提供をしながらできる限りの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、それぞれの思いや希望を聞き出せるよう努め、その都度記録している。困難な場合でも人格を尊重しながら話し合っている。	利用者によく話しかけており、寄り添いながら意向の把握に努め、生活に反映させています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や暮らし方、趣味、生きがいなどを情報収集してホームでも継続して支援できるよう努めている。また、居室には馴染みの物を持参して頂く等環境整備にも努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問看護師や管理者が毎日のバイタルチェック、体重減等を申し送り等において一人一人の心身の状態(精神・行動・表情等)の把握に努めている。また、生活において過ごし方の留意を図っている。(お手伝い、散歩、ドライブ、買い物等)		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者には普段の会話の中から聞き出す努力をしている。ご家族には面会時や毎月の手紙でご意見やご要望を頂けるよう取り組んでいる。	モニタリング、サービス担当者会議を経て介護計画を作成しています。家族の意向を確認し、現状に沿ったものとなるよう話し合っています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援、記録ができるよう努めている。また、介護計画のモニタリングも職員全員にやってもらっている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物に出かけたり、歩行可能な方は向かいの公園へ徒歩で散歩に出かけるなど、地域の中で安全に生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する従来の主治医がいるのであれば、ご家族と協力してかかりつけ医師の継続を図り、情報を提供できる体制にある。また、ホームの協力医院、薬局、歯科医院があり情報の共有を図りながら支援に当たっている。	入居後も同じ医療機関で受診できるように支援しており、家族が対応する場合は医師に情報提供しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問看護や、医療機関との連携を活用し支持を受けることができる。指示や相談を受ける環境にあり、入居者の方たちが適切な受診や看護を受けられるよう支援に取り組んでいる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院から入院治療計画書を頂いたり、退院時にはムンテラの場を設けてもらい医療相談室を通じて病院関係者との情報交換を図っている。また、入院中の洗濯物の交換や補充、オムツ類の補充など、利用者が安心して治療に専念できる体制を作っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において、ご本人の状態が重度化した場合やターミナルのあり方に対し、事業所の対応を説明させて頂いている。医療機関と家族、事業所との話し合いの場は必ず設け、チームで支え合う支援に取り組んでいる。そして、職員においても対応できる姿勢を話し合う機会を設けている。	職員は看取りを経験しており、家族に宿泊していただく等の協力を得て実施しています。医師との連携が図られており、希望に応じた支援ができるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時の対応は、連絡網を含め「フローチャート」に基づきマニュアル化されている。ホーム管理者を中心に事業所内の研修や外部研修を受講し、実践力の向上を図っている。いざという時の対応を常に話し合い、事故発生時や急変時に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を行い、年2回は消防署立会いの下合同訓練を実施し、災害に対する避難方法や対策に取り組んでいる。また、災害時の備蓄品の確保、見直しを行い、自家発電機の使用の確認をするなど災害対策に努めている。	備蓄品や装備の確認を定期的に行い、地域の協力が得られる体制もできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけることのないよう声掛けや対応に配慮している。また、研修においてもプライバシーの保護にて守られる権利を有しているということを常に心に持ち接している。	言葉かけの仕方に配慮し、さりげない支援ができるよう努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から入居者の思いや希望を聞き出す努力をしている。また、知り得た情報は職員間で共有し、叶えられるよう支援方法を検討している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方たち一人一人の思いを大事に、その日をどう過ごしたいのかを見極め、希望や思いに沿えるように支援を図り安心して頂けるように努めている。緊急時には、都度応援の職員が来て寄り添うこともあった。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その人らしさ」を尊重し、服の選択、行きつけの美容院へ出向いたりしている。また、ホームに出張してくれている理容室さんには、その方らしくセットして下さるよう配慮してもらっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態に応じた食材や形態で提供できるよう配慮し、職員が同じテーブルについて楽しい食事の場となるよう支援体制をとっている。また、可能な方には職員と一緒にテーブル拭きや食器拭き等もお手伝いして頂きながら、楽しい場となるよう支援している。	その人のペースで食事ができるように配慮しており、利用者の希望をメニューに取り入れたい、時にはお弁当を注文していつもとは違う雰囲気を出す等して食事が楽しいものとなるよう工夫しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の旬の食材を取り入れ、栄養バランスを考慮した献立作成に努めている。提供する食材は、一人一人の状態に合うようお粥や刻みにしたり、持ちやすい食器にするなど工夫し、支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。入歯は、毎日消毒管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘を予防するための食材選びやレク体操、排泄誘導確認表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握し失敗を防ぐなど、自立に向けた支援を行っている。	チェック表で一人ひとりの状態を管理し、その人に合った支援をしています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の生活歴や排泄パターンの把握は勿論、飲食物の工夫、日中のレク体操の推奨などを通じ、本人が自然体で排泄できるよう支援している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を観察しながら、状態に応じ全身浴、部分浴、シャワー浴等を行っている。また、状態の悪い場合には足浴マシンの活用、全身清拭など個々の状態に応じ支援している。	ほとんどの方が1日おきに入浴しており、状態によっては3日に1回の時もありますが、その人に合わせた支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況により安心して就寝できるように寝具の工夫を行っている。また、就寝前にはゆっくりとTV鑑賞をしたり、職員との会話を通じスムーズに入眠できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関や薬局からの説明書により、処方された薬の効用、副作用や注意事項などを全員で確認している。ホームの協力薬局の薬剤師からも指示を得て、服薬の支援と症状の変化などに注意を払い連絡体制を確立している。また、服薬結果も主治医へ報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味や楽しみ、役割を理解し活動や手伝いの支援を図っている。モップ掛けや配膳、食器拭き、洗濯たたみ等の役割を持ってもらい、できることへのサポートをしたり、職員と近くのスーパーへ買い物に行くなどで気分転換の支援をしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム前の公園への散歩、買い物、ドライブ、地域行事への参加、食事会への外出等、希望に沿う機会を多く設けるよう努力している。	感染防止のため地域行事や食事会は中止となりましたが、散歩やドライブは行っている他、できる限り希望に沿えるよう努めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常にお金を自己管理している方や、外出時に預かり金からお小遣いとして所持し、自分で支払いをするなど、一人一人の希望や能力に応じてお金を使えるよう支援と見守りを行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から毎月近況報告のお手紙の他、家族からの電話やお手紙に対しては直接本人に取り次ぎ対応してる。また、本人から電話を掛けたいとの訴え時には子機を渡し支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回のホーム内の消毒や汚物類の処理、空気清浄機の使用や空気の入れ替え、適度な温度、湿度調節等、衛生面においては最も配慮しており、季節の花や展示物など環境整備を図りながら、ホームの生活が居心地よく過ごせるよう工夫をしてる。	これまで以上に衛生面に心を配り、感染防止に努めています。共有の場は整理整頓され、安全に過ごせる環境となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いに自由に過ごすことが出来るように、居室に椅子やソファを置き、一人になれる空間や気の合った仲間が行き来できるような居場所の工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、TV、位牌等の持ち込みや家族の写真等、本人が家族と相談の上持ち込まれた物品により、在宅の居室と同じように本人が居心地よく生活できるような工夫を図っている。	馴染みのものや好きなものを持ってきていただき、落ち着いて生活できる居室づくりがされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が持っている力を十分に発揮できるようにお手伝いの種類などにも配慮し、「できること」「介助にてできること」など、安全に自立して力が発揮できるような環境整備に努め、生きがいを持てる工夫をしている。		